

余力のある人は遠慮なく勉強を!!

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

先々週のダイエットについてのお話は評判がよかったです。私は、この5～6か月で10 kgぐらい、1か月では2 kgぐらい痩せました。どのようにして痩せたのかをお話したところ、何人かの方々から面白かったという感想をいただきました。

先週は、長崎県の中学1年生が4歳の小児を殺害した事件について、開倫塾で行ったアンケートをもとにお話しました。その後、東京都の渋谷では小学4年生が監禁されるなど、毎週のようにいろいろな事件が起きています。これらの事件については、あとから訂正した内容も入れて、開倫塾のホームページ(www.kairin.co.jp の林明夫のページ)で紹介しています。週に2～3回訂正し、「林明夫」だけでも検索できますので、ぜひお読みください。

さて、私はいろいろな勉強会に出ています。それらの勉強会では、放送をお聴きの皆様が知らないことを聞くチャンスがあります。そこで、この番組を通して勉強した内容をお伝えしていきたいと思っています。

私は、東京・栃木・群馬にある3つの経済同友会に入会しています。7月11日に、東京の経済同友会で「教育の将来ビジョンを考える勉強会」がありました。その中で、文部科学省の元事務次官で、現在は日本学術振興会の理事長をなさっている小野元之先生が「我が国の教育の課題」というテーマでお話をされました。お話の中に思い知らされたことがありましたので、紹介させていただきます。

今回の勉強会の大テーマは、「学習指導要領」です。要するに、教科書の内容です。これが、最低基準であるのか到達目標であるのかという議論になりました。当初、文部科学省は到達目標であるとし、教科書に書かれている内容を教えさえすれば、学校の仕事は全部終わりだ・日本国民として十分だという考えを持っていたようです。

しかし、小野先生によると、学習指導要領・教科書は学校で教える最低基準であるとのこと。それが本当なら、教科書さえ勉強していればよい・それが到達目標であるとして今までやってきた小学生・中学生・高校生の皆さんは、勉強しなければならないことがもっとたくさんあるということになります。つまり、誰もが最低基準はクリアしなければならないという考えで教科書を精一杯勉強し、余力のある人はもっともっと勉強したほうがよいということです。

例えば、フランスの中学生・高校生の歴史の教科書は、日本のその約7倍もの分量があります。従って、日本の中学生・高校生よりもかなり詳しい内容を勉強するのです。ですから、日本では学校の教科書の内容は最低基準と考え、さらに深く学びたいと思う人はどんどん勉強するのがよいといえ

ます。

政治・経済などの公民分野も同様です。教科書の内容は最低基準ですので、もっともっと勉強してください。もちろん、算数や数学ももっともっと勉強しましょう。言い換えれば、学校の先生は学力に余力のある児童・生徒には、その余力に応じてもっと多くのことを教えなければならないということです。

栃木県は、就業人口の 50 %にあたる方々が第二次産業に従事しています。これから先、宇宙航空機産業や自動車産業などのエンジニアになりたい人は、小学校・中学校・高校の教科書レベルの勉強ではなかなか追い付きません。もっと勉強したほうがよいことが山ほどあります。ですから、学校の教科書、つまり学習指導要領は到達目標ではなく、最低目標であると認識し、誰に遠慮することなくどんどん勉強してください。

先日参加した東京の経済同友会の「教育の将来ビジョンを考える勉強会」で、文部科学省の元事務次官の小野先生から学習指導要領・教科書の内容は到達目標ではなく、最低基準を示すものであるというお話をお聞きしましたので、今日はそれを皆様にお伝えさせていただきました。

誰にも遠慮する必要はありませんので、余力のある方はどんどん勉強してください。教科書だけで精一杯という方は、それが最低基準ですのでクリアするようにお願いします。夏休みは教科書を復習するのに絶好の機会です。